

平成29年度 学校経営方針

八戸市立明治中学校
校長 佐々木 敏文

1 教育目標

- (1) 自ら学ぶ生徒 [知]
- (2) 思いやりのある生徒 [徳]
- (3) 心身を鍛える生徒 [体]

『夢をもち 学び 鍛えあう』
チャンス チェンジ チャレンジ
この機会に どう変わる 何に挑戦！

2 努力目標

- (1) めあてをもって学習に励もう 【確かな学力の保証】
- (2) 相手の立場を考えて行動しよう 【思いやりの心の育成】
- (3) 健康づくりに励もう 【たくましく生きるための体づくり】

3 経営方針

中学校での3年間は、生徒が社会的自立を実現するための人生の土台づくりの時期である。知・徳・体の調和のとれた人間育成に根気強く取り組んでいきたい。そして、出会いを大切に、一人一人のよさを生かす教育活動に誠心誠意努めていきたい。どんなことがあっても、生徒の可能性を信じ、プラス思考で仕事をするチーム明治を組織し、教育活動を展開したい。

《教師の基本姿勢》

- ①常に生徒の心と身体のいのちを最優先にして考える。
- ②人を教育する仕事の重みを考え、生徒のために、常に信念と行動力をもって仕事をするとともに、謙虚な気持ちで耳を傾け、学ぶ姿勢を忘れない。
- ③生徒指導の根幹は教師と生徒の信頼関係の構築にある。常に誠実な気持ちで生徒に接し、生徒の成長を喜び合える教師集団でありたい。
- ④すべての教育活動にカウンセリング・マインド（受容と共感）をもった姿勢で臨む。
- ⑤全教職員がチーム明治として、学校経営に対する参画意識をもち、各自の持ち味を最大限に生かし、協力し、責任をもって仕事に取り組む。
- ⑥学校や地域の特色を十分に生かした教育活動を心がける。

《 笑顔で 元気に さわやかに 明治中 》

4 学校目標

『夢をもち、学び、鍛えあい、何事にも主体的・意欲的に取り組む生徒の育成』
～チャンス チェンジ チャレンジ の場の設定を通して～

〔重点施策〕

- (1) 一人一人の子どもに「確かな学力」を身に付けさせるために、「特別支援教育の視点」を取り入れた授業づくりを行う。「わかった！できた！身についた！」
 - ①「聴く・話す・読む・書く」等が効果的に展開する、メリハリのある生き生きとした授業づくりを行う。個に応じた指導の工夫を図る。
 - ②適切な配慮・支援の工夫をして、個性・個人差に応じた個別指導を行う。
 - ③学習習慣を形成する指導を行う。家庭学習のやくそく重点目標を意識させる指導。
 - ④学習意欲を向上させる取り組みを根気強く行う。基礎力コンテスト等を活用し、個に応じたの事前・事後指導を行う。
 - (2) 望ましい人間関係の構築を図り、生徒一人一人が活躍する場・認められる場の充実を図る。
 - ①挨拶・返事、プラス1（心を添える）を意識した言動の励行。率先垂範の姿勢。
 - ②安心できる雰囲気や学級づくり。切磋琢磨できる仲間づくりを考えた学級経営。
 - ③常に【明治中生としての人間力 振り返り10項目】を意識させた指導。
 - (3) 将来の夢や希望をもたせるキャリア教育の視点に立った教育活動を行う。
※何事も、自ら進んで取り組む、より積極的な心を育てるために、「なぜ学ぶのか」「何を学ぶべきか」をキャリア教育の視点を通して考えさせる。行事、体験活動等。
 - (4) 保護者や地域住民との協働に努める。※PTA活動の活性化への働きかけ
※地域社会の一員として積極的に関わろうとする意識を育てる。地域への貢献。
- ## 5 29年度の4つの実践 《チャンス チェンジ チャレンジ の場の設定を通して》

- (1) 一人一人の子どもに「確かな学力」を身に付ける学校づくりを目指す
- ① 将来の夢や希望をもたせるキャリア教育の視点に立った教育の推進
 - ㊦ 何事も、自ら進んで取り組む、より積極的な心を育てるために、「なぜ学ぶのか」「何を学ぶべきか」をキャリア教育の視点を通して考えさせる。
 - ㊧ 今取り組んでいることと将来の社会との関係を見出し結びつけることにより、自分が学んでいる理由や重要性を知ることを目指す。
 - ㊨ 単なる進路先を探す教育ではなく、自分を知ることからはじめ、何に向いているのか、何を高める必要があるのかを面談等を通して一人一人に対してサポートする。
 - ㊩ 学校外部の教育資源の円滑な確保に努める。
 - ② 授業改善による学力の向上 ←『夢をもち 学び 鍛えあう』生徒を育てる指導の工夫
 - ㊦ 意欲的（自主的）に取り組むことを念頭に置き、授業がおもしろい・楽しい・不思議だという思いをもたせる授業の実践を通して、「学びたい」「もっと勉強したい」という気持ちを育てる。生徒の視点を生かす授業づくり。
 - ㊧ 積極的に授業公開し、意欲を高める指導の工夫に視点を当て、授業について学び合う土壌を育む。同僚性の構築。
 - ㊨ 「特別支援教育の視点」を取り入れた授業づくりのために、授業改善チェックシートや授業アンケート等を有効活用し、授業改善に努める。
 - ③ 個に応じた指導 → T T 活用、特別支援アシスタントとの連携
 確かな学力を確かなものにするために、T T 指導を取り入れるとともに、適切な配慮・支援の工夫をし、個性・個人差に応じた個別指導に努める。
 学習意欲の2極化の解消のため、個に応じたの事前・事後指導を工夫する。
 - ④ 学習習慣の確立を図る。 ←『夢をもち 学び 鍛えあう』生徒を育てる指導の工夫
 JS 家庭学習のやくそく：重点目標 最初に「宿題」！
 ※その日のうちに復習・予習（発展的課題）を意識させ、取り組ませる。
- (2) 望ましい人間関係の構築を図る ※生徒理解、自己理解、他者理解の充実
- ① ソーシャルスキルの実践
 Q - U 検査を実施し、その結果を参照し、ソーシャルスキルトレーニングによって、人間社会のルール、上手な聴き方、上手な話し方、仲間づくりのスキルを通してよりよい人間関係を築く方法を身に付けさせる。
 - ② 切磋琢磨できる仲間づくりと安心できる学級づくり
 傷つけられない安心感がある学級・認められたい欲求が満たされる学級・一体感もてる学級づくりを推進する。教育相談体制の充実(SCとの連携強化)。毎月、生活アンケートの実施・活用。情報の共有を図り、積極的生徒指導へ。
- (3) 子ども一人一人が活躍する場・認められる場の充実を図る
- ① 学年・学級経営並びに学校行事において、「自尊感情」や「自己有用感」の育成に努める。
 - ② 行事などの取組の後に、お互いをたたえる機会の設定に努める。
 - ③ 多くの生徒がリーダーを経験できるような機会や場面の設定に努める。
 - ④ 生徒会活動の活性化を図る。・・・全校生徒一人一人の参画意識を高める工夫
 一年間のテーマに基づいた系統性のある企画・運営を実践し、チーム明治の意識を高める活動をめざす。←『夢をもち 学び 鍛えあう』生徒を育てる指導の工夫
- (4) 保護者や地域住民との協働に努める
- ① 地域の行事や活動に積極的に参加するとともに、地域へ貢献する。
 → 地域をよく知るとともに、地域の行事やイベント及びボランティア活動に積極的に参加することを推進し、地域の活性化の役割を果たしつつ社会への貢献の仕方を学習する機会とする。
 - ② いつでも誰でも学校に足を運べるような雰囲気づくりと情報発信に努める。
 - ③ P T A 活動の活性化を図る。※ P T A 委員会活動への参加促進を図る。